



TOKYO PARK GARDEN AWARD

@ 砧公園

コンテスト作品集

2024年9月－2025年11月



目 次

2	第3回 東京パークガーデンアワード 砧公園
4	コンテストのテーマとスケジュール
5	会場の概要
6	作庭時のルール
7	コンテストガーデンの工夫
8	月々の変化と植物
12	審査基準と審査方法
13	第3回 東京パークガーデンアワード授賞式
14	エリアA Gathering of Bouquet ～庭の花束～
20	エリアB Circle of living things ～おいでよ、みんなのにわへ～
26	エリアC Ladybugs Table 「てんとう虫たちの食卓」
32	エリアD KINUTA “One Health” Garden
38	エリアE 「みんなのガーデン」から「みんなの地球（ほし）」へ

都立公園を花の魅力で彩る画期的コンテスト

「第3回 東京パークガーデンアワード 砧公園」

新しい発想を生かした花壇デザインを競うコンテスト「東京パークガーデンアワード」。2022年に「都立代々木公園（東京都渋谷区）」で開催された第1回に続き、第2回は「都立神代植物公園（東京都調布市）」、そして第3回は「都立砧公園（東京都世田谷区）」が舞台となりました。2024年9月下旬に書類審査により5名の入賞者が決定。4月からコンテストガーデンが一般公開され、日々成長する庭が公園を訪れる人々の目を楽しませました。

この「東京パークガーデンアワード」は、花壇デザインはもとより、植物や土壌の高度な知識が求められる、今までのものとは一線を画すガーデンコンテストです。書類審査を通過した5名には、制作費として300万円を上限に支給され、5つの異なるデザインの花壇が作られました。



コンテストガーデンができる以前の様子。ケヤキの大木を背景に、'みんなのひろば'と'梅林'の間に広がる緑一色の場所でした。



東側にケヤキの大木が連なる広場に設けられたコンテストガーデンは、写真奥の北側から手前の南側に向けて2つ1組の花壇が5つ設けられ、花壇の間を通り抜けながら、季節ごとに咲くさまざまな植物が楽しめました。



各コンテストガーデンは、高さ40cmの枠に囲まれた中に作られました。子どもたちの目線に近い高さで、かがまなくても植物を身近に観賞できるのも今回の特徴です。隣接する'みんなのひろば'や'ねむのき広場'からコンテストエリア全体を眺めたり、花壇に挟まれた通路を歩きながら、左右に育つ植物を観賞したりするなど、さまざまな角度からガーデンを堪能することができました。

第3回コンテストのテーマは「みんなのガーデン」



今回コンテストの舞台となった東京都世田谷区にある都立砧公園は、成城学園、二子玉川など閑静な住宅街からほど近い場所にあり、芝生の広場と樹林で構成されたファミリーパークのほか、運動施設や遊具などが設置された広場が整備され、幅広い年齢層に親しまれている場所です。天気の良い休日には、家族連れがお弁当を広げる光景もあちらこちらで見られ、遊具などが設置された‘みんなのひろば’前からも花壇の植物が見える開けたスペースにコンテストガーデンが作られました。訪れる人々の五感を刺激し、誰もが見ていて楽しいと感じる要素を取り入れた「みんなのガーデン」であることが求められました。

また、第1回から引き続き、“持続可能なロングライフ・ローメンテナンス”であることが「東京パークガーデンアワード」の外せないルールです。丈夫で長生きする宿根草を中心に選び、季節ごとの植え替えをせず、四季ごとに花の彩りがあることが求められました。

▶ 1年かけて行われたコンテスト

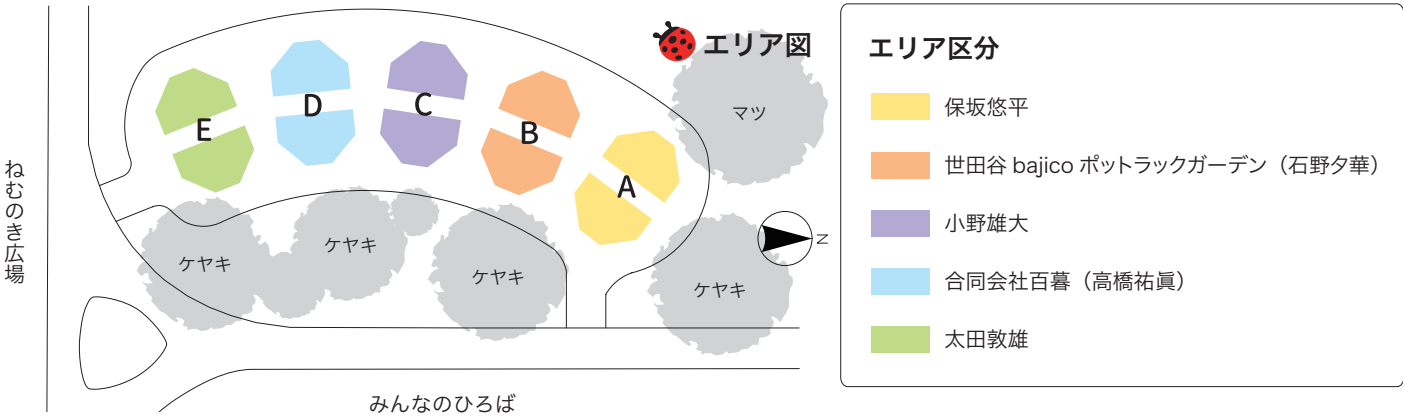
2024年9月上旬のエントリー募集後、9月下旬に5名の参加者が決定。同条件に整地された花壇が割り振られ、12月には1回目のガーデン制作が、2025年2月下旬には2回目の植え付けや手入れが行われました。4月から11月に3回の本審査が行われたあと、11月下旬に授賞式が行われました。

第3回 東京パークガーデンアワード 砧公園
最終審査までのスケジュール



5つのガーデンが競い合うコンテストの舞台、
都立砧公園「みんなのひろば」前

コンテストガーデンが設けられた敷地の平面図。A～Eの各面積は約40㎡。
どのエリアでガーデンを制作するかは、2024年10月に抽選により決定しました。



公園の正門や駐車場からコンテストガーデンに向かうと見えてくる「東京パークガーデンアワード」の開催を示す看板が目印。



2024年12月に行われた第1回作庭で5つのガーデン制作に関わった皆さん。



第3回コンテストにおける作庭時のルール



デザイン・植物について

- 国内市場で流通している植物のみ使用可能です（採取した植物は使用できません）。
- 公園内で爆発的に繁殖するおそれがある植物は使用できません。
- 主たる植物は多年生植物を使用してください。容易に制御が可能な、草本類に近い木本類は使用可能（全ての植物は高さ2m以内に限ります）。
- 構造物やガーデンオーナメント等の設置はできません。植物のみで構成してください。



メンテナンスについて

- 入賞者によるメンテナンスは、計画や予定を申請して行われました。
- 補植は可能。
- 最低限植物の状態を保つ週1回程度の灌水は事務局が行いました。
- 薬剤の散布はできません。自然素材の忌避剤の使用も不可とします。



土壌について

- 会場の基礎土壌は、事務局にて準備した土を使用。
- ガーデン制作時に施肥など土壌改良が可能。
- 事務局にて既存地盤の上に盛土（厚さ40cm）をし、植栽基盤厚を確保しました。
- 各コンテストガーデン区画は、土留め機能を有する部材で囲った状態で引き渡されました。



～第3回コンテストガーデンの工夫～

月々のメッセージボード

花壇の南西側に、作庭者がメッセージを書き込める掲示板を設置。月々メッセージが書き換えられ、見学者にその時期の見どころをPRしました。



エリア A



エリア B



エリア C



エリア D



エリア E

除去した草の処理法

各ガーデンでは、メンテナンス時に発生する枯草、剪定した枝葉、除草した草、花殻などを花壇内で処理できるような工夫が見られました。剪定枝を利用して野鳥の巣のように枠組みを作るバイオ



エリア A



エリア B



エリア C



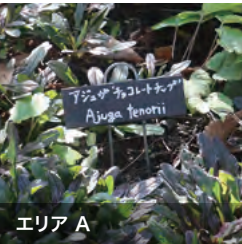
エリア D



エリア E

植物名がわかる“ネームプレート”を

庭のデザインの邪魔にならず、見学者にさりげなく植物の名前が伝わるよう、鉄製や木製のオリジナルプレートが設置されました。



エリア A



エリア B



エリア C



エリア D



エリア E

月々の変化と植物

12月の作庭後、1月は最低気温マイナス4.9℃の日がありながらも、小さな芽吹きを確認。3月になると、ようやく春を思わせる陽気となり、シラーやスイセンなどの早咲きの球根が次々と開花しました。4月には成長が一気に進み、むき出しだった地面も少しずつ植物で覆われていきました。5月にはアリウムやアイリスが花茎を伸ばして咲き、どのエリアにも彩りが加わりました。例年に比べて降雨量が極端

に少ない梅雨時期を経て、6月以降は植物の成長がさらに加速し、花壇に立体感が生まれました。35℃以上の猛暑日が10日間続いた8月は雨も少なく、暑さがおさまらないまま9月を迎えました。10月になっても気温はなかなか下がらなかったものの、秋に向けて蕾を膨らませる植物が次第に増えていきました。11月にはさまざまなグラス類が存在感を発揮し、秋咲きの花が次々と開花して花壇を鮮やかに

彩りました。

各エリアの植物は、ロングライフ・ローメンテナンスであることに加え、五感を刺激し、見ていて楽しいと感じられる「みんなのガーデン」を意識して選定されたものばかり。月ごとにボタンタッチするように何種類もの花々が花壇を彩り、猛暑を経て秋に再び咲き出したものや、3カ月以上にわたって咲き続けた種類もありました。



スイセン 'テータテート'
(Aエリア)



ブラックローズリーフレタス
(Bエリア)



原種系チューリップ
'アルパ コエリレア オクラータ' (Cエリア)



プルモナリア 'ダイアナ クレア'
(Cエリア)



ユーフォルビア・リギダ
(Dエリア)



ナルキッス 'ペーパーホワイト'
(Eエリア)



フロックス・ディバリカタ 'メイプリーズ'
(Aエリア)



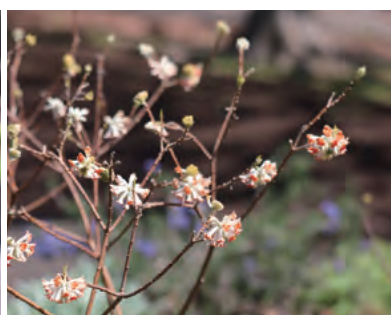
スイセン 'タリア'
(Aエリア)



チューリップ 'エデュアルトベルガー'
(Bエリア)



フリチラリア・インペリアス
'オレンジビューティー' (Cエリア)



ペニバナマンサク
(Dエリア)



ユーフォルビア・ウルフエニー
(Eエリア)



オーニソガラム・アラビカム
(Aエリア)



チャイブ
(Bエリア)



ギリア・レプタンサ
(Bエリア)



カマッシア・クシッキー
(Cエリア)



ビバーナム・ハリアナム
(Dエリア)



パパベル・コムタツム 'レディーバード'
(Eエリア)



ルドベキア 'フラメンコ・ブライトオレンジ'
(Aエリア)



ムスクマロー 'ホワイトパーフェクション'
(Bエリア)



ユリ 'リーガルリリー'
(Cエリア)



ウスベニアオイ
(Dエリア)



アザミ
(Dエリア)



ペロニカ・ロンギフォリア 'マリエッタ'
(Eエリア)



7月



ユーパトリウム 'ベビージョー'
(Aエリア)



エキナセア 'ブラックベリーリキュア'
(Bエリア)



ヘメロカリス 'クリムゾンパイレーツ'
(Cエリア)



オミナエシ
(Dエリア)



エリンジウム・コッキフォリウム
(Eエリア)



ネリウム (=キョウチクトウ)
'ペティットサーモン' (Eエリア)



8月



ヘリオプシス 'ブリーディングハーツ'
(Aエリア)



コレオプシス 'ガーネット'
(Bエリア)



エキナセア 'メローイエロー'
(Cエリア)



ヘレニウム 'シエスタ'
(Cエリア)



モナルダ
(Dエリア)



カンナ 'ベンガルタイガー'
(Eエリア)



9月



アガスターシェ 'ブルーフォーチュン'
(Aエリア)



ユーパトリウム・コエレスティナム
(Bエリア)



オジギソウ
(Bエリア)



リアトリス・スカリオサ 'アルバ'
(Cエリア)



アロニア 'メラノカルパ'
(Dエリア)



オキシペタルム・カエルレウム
(Eエリア)



10月



アガスターシェ 'モレロ'
(Aエリア)



サルビア 'ミスティックスパイアーズブルー'
(Aエリア)



ヒガンバナ
(Bエリア)



アスター・アンペラータ
(Cエリア)



ハギ
(Dエリア)



アスター 'ジンダイ'
(Eエリア)



11月



アスター 'パープルドーム'
(Aエリア)



シュウメイギク '雪ウサギ'
(Bエリア)



アスター 'シロクジャク'
(Cエリア)



アメジストセージ
(Dエリア)



アマランサス 'ホビレッドダイ'
(Eエリア)



ダリア 'ブラックナイト'
(Eエリア)

審査基準と審査方法

審査は4月、7月、11月の3回。4月は、春の見ごろを迎えた観賞性を評価する「ショーアップ審査」、7月は、梅雨を経て猛暑に向けた植栽と耐久性を評価する「サステナブル審査」、11月上旬には秋の見頃の鑑賞性と年間の管理状況を評価する「ファイナル審査」の3回の審査を経て、11月に受賞作品が決まりました。

審査基準

- ・公園の景観と調和していること
- ・公園利用者の関心を得られる工夫があること
- ・公園利用者が心地よく感じられること
- ・植物が会場の環境に適応していること
- ・造園技術が高いこと
- ・四季の変化に対応した植物（宿根草など）選びができていていること
- ・「持続可能なガーデン」への配慮がなされていること
- ・メンテナンスがしやすいこと
- ・テーマに即しており、デザイナー独自の提案ができていていること
- ・総合評価

各審査は別途定める規定に従い、審査委員による採点と協議により行われました。

4月 ショーアップ審査



7月 サステナブル審査



11月 ファイナル審査



第3回 東京パークガーデンアワード授賞式



2024年12月のガーデンの施工から約1年が経過し、3回目の審査となる『ファイナル審査』が2025年11月6日に行われ、入賞5作品の中より「グランプリ」、「準グランプリ」、「審査員特別賞」が決定。2025年11月22日、東京都世田谷区にある上用賀アートホールにて授賞式が行われました。式典では、賞状とクリスタルメダルの贈呈、審査員による講評、受賞者による喜びのコメントが発表され、参列者より大きな拍手が贈られました。



グランプリ コンテストガーデン C
Ladybugs Table
「てんとう虫たちの食卓」

小野雄大 さん



準グランプリ コンテストガーデン A
Gathering of Bouquet
～庭の花束～

保坂悠平 さん



入賞 コンテストガーデン B
Circle of living things
～おいでよ、みんなのにわへ～

石野夕華 さん
世田谷bajicoポットラックガーデン

審査員（敬称略）



福岡 孝則（ふくおか たかのり）
東京農業大学地域環境科学部 教授



正木 覚（まさき さとる）
環境デザイナー・まちなか緑化士養成講座 講師



吉谷 桂子（よしや けいこ）
ガーデンデザイナー



本木 一彦（もとき かずひこ）
東京都建設局公園緑地部長



植村 敦子（うえむら あつこ）
公益財団法人東京都公園協会 常務理事



審査員特別賞 コンテストガーデン E
「みんなのガーデン」から
「みんなの地球（ほし）」へ

太田敦雄 さん



入賞 コンテストガーデン D
KINUTA
“One Health” Garden

高橋祐眞 さん
合同会社百幕



7月



7月

アガスターシェ 'モレロ'とアスター 'ロイヤルルビー'、ルドベキア 'フラメンコ・ブライトオレンジ'の濃厚な花色の取り合わせが印象的。

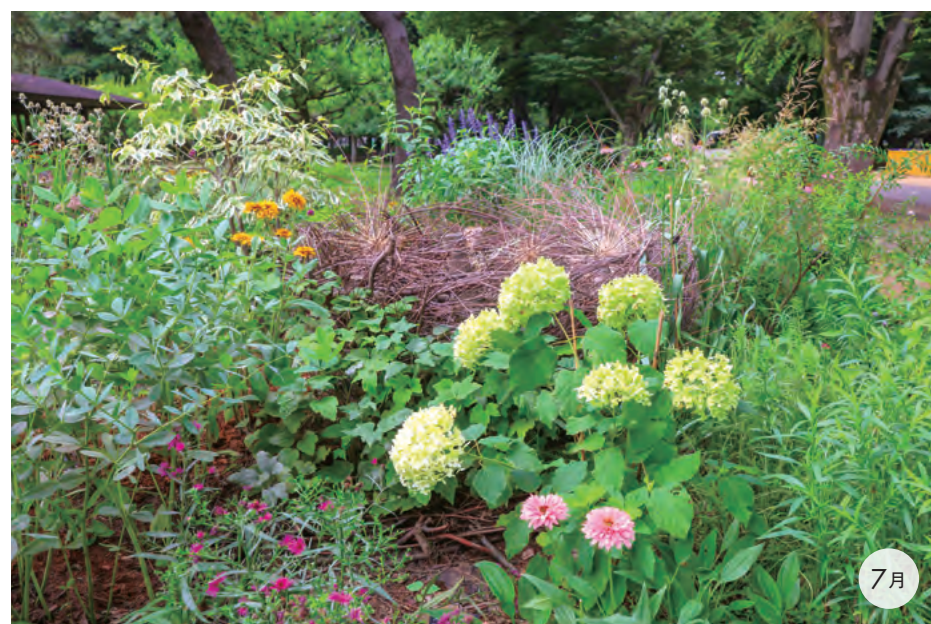
準グランプリ

Gathering of Bouquet ～庭の花束～

Garden Designer | 保坂悠平 (東京都)

作品のテーマ・創作意図

皆さんの日常に癒やしや潤いを届けた
いという願いを込め、プランツ・ギャザリ
ングの視点で、ガーデンをひとつの大き
なブーケに見立ててデザインを構成しまし
た。動物たちが次の訪問者のために心遣
いを残していく絵本から着想を得て、あら
ゆる世代の方が見て触れて、香りなどを楽
しめるように、花の形や手触りがおもしろ
いものを用いた植栽計画をしています。ぜ
ひ手に取って、お気に入りの植物を見つ
けてください。たくさんの感動や気づきが
新たな会話を生み、笑顔になるシーンが
増えますように。



7月



7月

丸いバイオネストを中心に、ルドベキアやエキナセア、アガスターシェ、アスターなどの花々が彩る7月。

応募時に提出されたデザイン図面



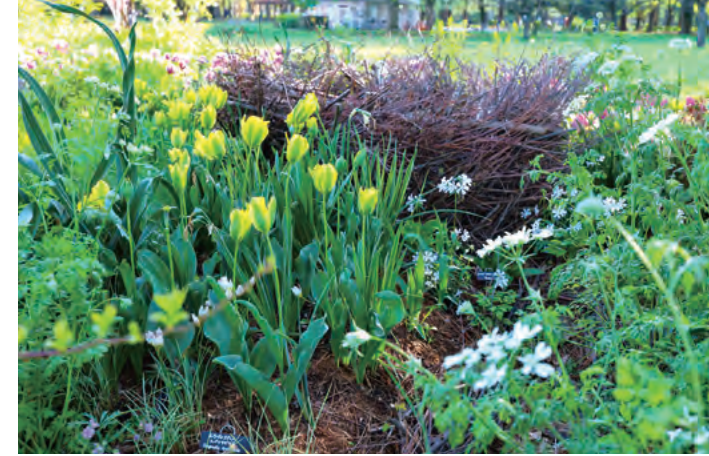
主な植物リスト

宿根草: エキナセア 'マグナススーベリア' / ペンステモン 'ストリクタス' / アガパンサス 'ピクチュアホワイト' / クラスペディア 'ゴールドスティック' / オルレア・グランディフローラ 'ホワイトレース' など

グラス類: ペニセタム・ピロサム '銀狐' / メリニス 'サバンナ' / ホルデューム・ジュバタム / カラマグロスティス・ブラキトリカ など

低木: コルヌス・ステラピנק / ビルベリー 'ローザスブラッシュ' / ニシキギ・コンパクト / コパノズイナ など

球根: チューリップ 'フレーミングビューリシマ' / レウコジャム 'スノーフレイク' / アリウム 'グレイスフルビューティ' など



4月



5月



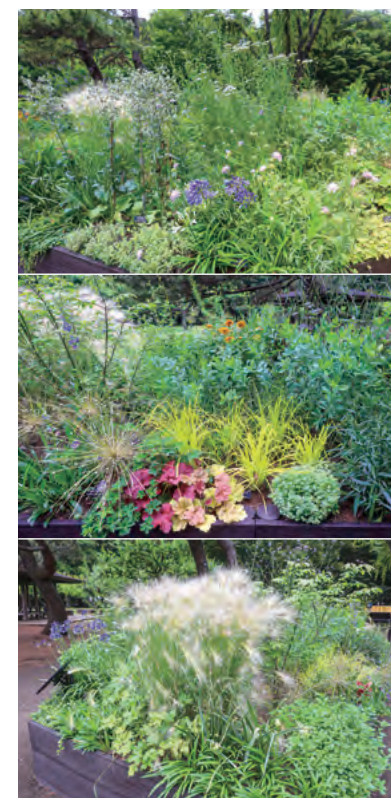
12月



2月



4月



6月



Garden Designer
保坂悠平 (東京都)

明治大学農学部農学科を卒業。造園会社を経て、花卉小売業界に転身。パイオフィリックデザインの企画・提案に造園技法を取り入れながら、緑化事業を中心とした業務に従事する。また、設計段階から植栽計画に参画して施工監理まで携わる他、地域の多世代交流を目的としたコミュニティデザインプログラムの監修業務を担う。

一年を振り返って

季節ごとの草丈・開花期・色彩の変化を踏まえつつ、視覚的な彩りと空間の広がりを用意した「庭の花束」を表現しました。限られた面積を鑑みて、小さな配植を丁寧に重ね、グラス類は緩やかに束ねることで、配植の繊細さを際立たせています。夏の開花量を抑える切り戻しを行い、植物の体力を温存させることで、秋まで開花期を延ばす工夫を実践。その結果アガスターシェ、ヘリオプシス、アネモネなどは再び蕾を上げ、秋の構成美においても重要な役割を果たしてくれました。また、子供から大人まで楽しめるように、目線の高さに配慮した多層的な花壇構成を目指しました。宿根草に柔らかな日陰を提供するパイオネストを中心に据えることで、植物の生育特性に応じた配置に多様性を生むことが出来たと考えています。その結果、ガーデン全体に奥行きが生まれ、来園者の視線や動線を自然に誘導してくれる花壇構成が実現しました。

ガーデンにパイオネストがもたらした機能と可能性が、新たな気づきとなりました。管理作業で発生した植物残渣はすべてここに収めることができ、廃棄物の削減と土壌循環の促進に貢献。また、景観要素としても機能し、冬は構造物としての存在感を、春以降は宿根草を始めとする草花の背景として視覚的なアクセントを担ってくれました。ナチュラルスティックな場の質を高めると同時に、来園者の興味を引く造形として、ガーデンに物語性を添える存在となってくれたことは思わぬ発見の1つです。

年間を通しての最大の成果は、ガーデンを介して来園者のまわりで生まれる交流です。植物単体の美しさだけではなく、風景としての調和を大切にしながら「このガーデンがみんなの記憶の中で輝きますように!」と想いを込めて管理に取り組みました。



審査員講評

タイトル通り、花束のような素敵なガーデンでした。公園に溶け込んだ遠景は絵画的で美しく、近づいてみると、植物どうしが響き合って作る美しいシーンが随所に見られました。パイオネストはサステナブルな機能だけでなく、庭を特徴づける造形物としても効果的に働いていました。花壇の場所的に一部が松の木陰になってしまうハンディがありましたが、植物選択やメンテナンスの工夫でうまく対処されていました。厳しい夏を越えられなかった植物も見受けられましたが、春の華やかな景色は今なお強く印象に残っており、都会的で洗練された美しさが秋に至るまで展開されていました。多くの人々に楽しさや幸福感、季節の移ろいの喜びを与えてくれるガーデンでした。



7月



7月

大輪の純白のユリ、オリエンタルリリー・プロポーザルが多数開花し、ベニセタム・マクロウルム 'テールフェザーズ'の穂が寄り添って圧巻の存在感を放つ。



Circle of living things ～おいでよ、みんなのにわへ～

Garden Designer | 世田谷 bajico ポットラックガーデン 石野夕華 (東京都)

作品のテーマ・創作意図

季節によってカラーリングが変化する植物や、実をつけて味わい深い風景を作ってくれる植物に集まる多様な生き物たち。そして各所に配置したサークルネストはそんな生き物たちの拠り所に。命の循環というキーワードをもとに植物だけではなく生きとし生けるものたちの集まる「庭」をテーマにデザインしました。人間だけに限らず、あらゆる生き物たち「みんな」にとっても楽しめる「命を感じられるガーデン」は「みんなのにわ」となり、命を循環させてゆきます。



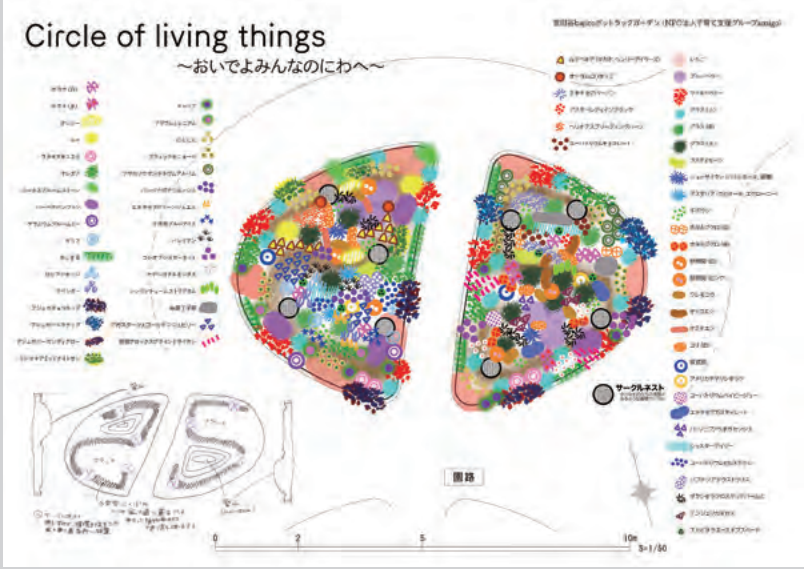
7月



7月

オリエンタルリリー・プロポーザルの周りにバーベナ・ボナリエシスやバレイアナ・オフィシナリスがワイルドに丈を伸ばし、周囲の花々とやさしく調和する7月。

応募時に提出されたデザイン図面



主な植物リスト

宿根草：バブティシア 'ブルーベリーサンデー'／アガスターシェ 'ゴールデンジュビリー'／糸葉丁子草／スタキス・オフィシナリス など
 グラス類：カレックス 'プレーリーファイア'／メリニス 'サバンナ'／ペニセタム・オリエンターレ など
 低木：ブルーベリー／イチジク／紫式部 など
 球根：アリウム各種／チューリップ各種 など





Garden Designer

世田谷 bajico ポットラックガーデン 石野夕華 (東京都)

造園会社や園芸店での勤務を経て、自身の出産のタイミングで独立。知人のお庭づくりから始まり、現在は世田谷区内の個人宅や地域子育て支援拠点おでかけひるばをメインに自転車で移動する、ちりりんガーデナーとして活動中。世田谷区立桜丘農業公園（仮）予定地の暫定利用期間に「桜丘ポットラックガーデン」の運営に従事。

一年を振り返って

来園者の興味を引く野菜類やオジギソウなど、みんなのガーデンというテーマに沿った独自のチョイスができました。なかでもオジギソウはとても吸引力があり、子どもだけでなく大人も足を止めて楽しんでもらえていたと思います。また、テーマカラーで分けたりガーデン内でも見所を点在させたりすることで、どの角度からでも楽しめるガーデンになりました。

自分たちで考案した、メンテナンス時の発生材を利用したサークルネストは、生き物の抛り所になるだけでなく季節感の演出にも一役買いました。シンボリックな姿ですが植物の邪魔をせず、ガーデンともよくマッチしたと思います。一年という期間もあり、当初のアイデアの中にあった「たくさんの生きとし生けるものたち全てがやってきてくれる」、ということまで辿り着くことはできませんでしたが、今後も管理事業者によるメンテナンスが続いていくなかで、その姿に徐々に近づいていくことはできるだろうという手応えは感じることができました。

私達の住む世田谷の地の親しみある砦公園で、地域でつながった仲間たちとコンテストに挑戦し、ガーデンをつくり上げ、管理しながら見守ることができました。今後も地元を盛り立てたツールとして、このガーデンが区民の憩いの場になることを期待しています。ガーデンは人と植物だけではなく、人と人とのつながりを生み出すコンテンツ。メンテナンス中などに、来園者にガーデンの説明や見所、今後の楽しみなど、ガーデンの意図を直接伝えることの重要性に気づきました。

審査員講評

イチゴやイチジクなど、自分の庭に取り入れたいくなるカジュアルな提案がたくさん詰まった庭でした。見ているうちに「美味しそう!」と感じ、ガーデンの先にある家族の物語まで想像させてくれます。剪定枝で作った可愛いサークルネストなど、子どもと一緒に楽しめそうな工夫も魅力的です。植栽デザインは年間を通して全体の色合いが美しく、コーナーごとに設けられたテーマカラーをぐるりと一周しながら眺める楽しさがありました。特に秋には、黄・オレンジなど暖色系の構成から、目を転じるとアスターなどの寒色系へと色調が変化する眺めが絵画のようでした。季節ごとに多彩なシーンを提供してくれ、幅広い世代の来園者が訪れる砦公園という場所にふさわしい、元気をもらえるガーデンでした。





カシワバアジサイ 'ルビースリッパ'の赤みが差した花とアスチルベ・タゲッティ 'スペルマ'のピンクの花が、低く茂る緑に引き立てられ呼応する。



Ladybugs Table

「てんとう虫たちの食卓」

Garden Designer | 小野雄大 (宮城県)

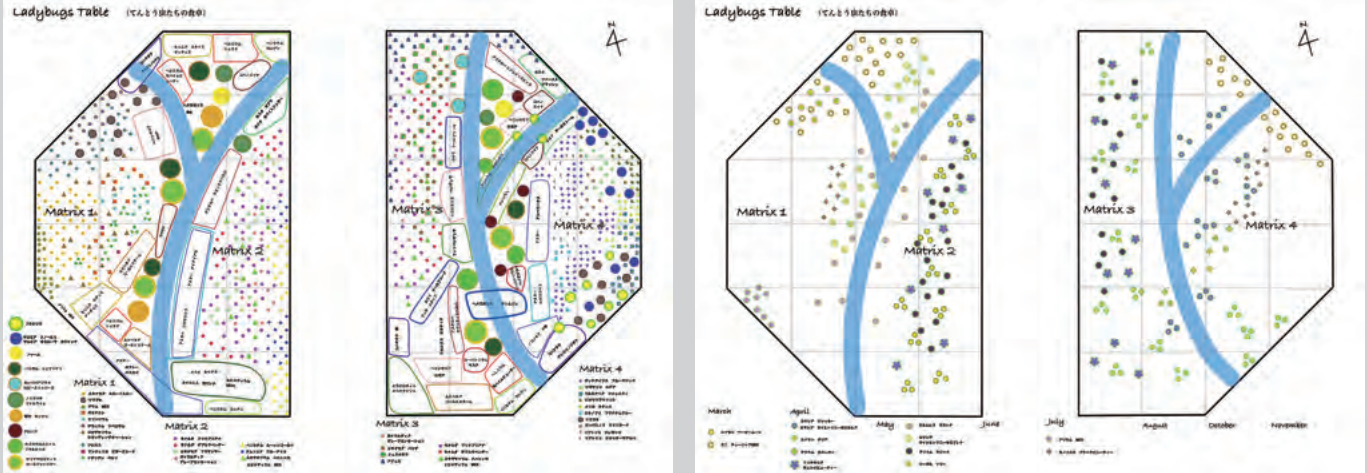
作品のテーマ・創作意図

砧公園で暮らす「小さな住人（虫たち）」がこのガーデンを訪れて住みやすいように生態系を意識した植栽のデザインをしています。植栽は、見る場所や角度によって印象が変わるように、カマキリなどの天敵が身を潜められるような複雑さが出るよう工夫しました。植物は、てんとう虫やカマキリの食料となるアブラムシなどが好む「バンカープランツ」や蝶やミツバチたちの蜜源となる植物を植えています。「小さな住人（虫たち）」の生活をそっとのぞき見することができる場所を目指しています。ここでの小さな体験が、自分の身近な自然環境を考えるきっかけになってもらえたら嬉しいです。



白緑に輝くペニセタム 'カシアン'やカラマゴロステリス 'カールフォスター'などのグラスが穂を上げ、さまざまな色や形の葉が、その魅力を生き生きと見せる7月。

応募時に提出されたデザイン図面



主な植物リスト

パンカープランツ：ヘメロカリス／ユウスゲ／イタリアンパセリ など
 宿根草：モナルダ 'ブラドブリアナ'／エキナセア 'メローイエロー'／アスター 'オクトーバースカイ' など
 グラス類：スキザキリウム 'ハハトンカ'／ペニセタム・カシアン／パニカム 'シェナンドア' など
 低木：キンカン／アロニア／コバノズイナ など
 球根：ダッチアイリス 'ブルーマジック'／カマシア／カノコユリ 'ブラックビューティー' など





Garden Designer

小野雄大 (宮城県)

スワローテールガーデン代表。英国の「ドライストーンウォーリング」という石だけを使った石積みを中心に様々な広さの庭づくりをしています。そこに集まる生き物たちや、たおやかによりそうように成長して行く植物たち、みんなにとって気持ちの良い場所になるように。そんな思いを軸に設計デザインから施工まで手がけています。

一年を振り返って

原生地で見られるような群落を意識し、季節——とくに春から初夏にかけて——の移ろいによって雰囲気が大きく変わるように植栽を構成しました。ネスト通路を挟んで各エリアがレイヤーをつくるよう工夫しており、立つ位置によって奥行きが生まれ、印象や見え方が変わったのではないかと思います。

テーマは「昆虫などの小さな生きもの」。そのため、越冬のための枝を敷いたり、春先にアブラムシがつきやすい“原種系チューリップ”を植えたりと、ガーデンの象徴となったテントウムシが早い時期から活動しやすい環境づくりを行いました。その結果、アブラムシなど特定の虫が過剰に増えることもなく、ガーデン全体の生態系をバランスよく保つことができたと感じています。

「バンカープランツ」の手法は予想以上に効果的で、初夏にアブラムシで真っ黒になるはずのヘメロカリスが、ほぼ無傷だったのには驚きました。今回もっとも被害が多かったのはマメコガネでしたが、コガネムシの幼虫に寄生するツチバチが多く飛来していたので、来年の変化が楽しみです。8月の時点で観察できた昆虫はおよそ120種類。ガーデンの存在が、砧公園の生態環境に少しでも寄与できたのではないかと感じています。

一年を通して華やかさを保ちながらローメンテナンスを目指すことは、やはり反比例の関係にあると実感しました。広大ではない1つのガーデンで“見どころ”とのバランスをとる難しさは、大きな学びになりました。

また、施工から約3年後に全体がよく馴染む景観になるよう意識してデザインしましたが、土壌改良（微生物・空気・水の流れを意識）を丁寧に行ったことで、一部の植物がまるで3年の風格をまとったかのように成長し、驚かされました。今後はその部分をさらに深めていけたらと思っています。

審査員講評

「てんとう虫たちの食卓」というテーマがよく表現された庭でした。アブラムシを増やす植物をあえて入れてテントウムシを誘い、剪定した枝葉を作業通路に置いてナメクジなどを引き寄せ植物たちを守るなど、生態系を豊かにすることで庭も美しくするプランが成功しているようでした。プランツタグのQRコードで植物や虫たちを紹介する発信も素晴らしい取り組みです。広めに確保された作業通路が風の道となり植物が蒸れにくく、景観的にも奥行きや抜け感を生み、植物の表情をより豊かに演出していました。グラスの穂が風に揺れる姿は野原で遊んでいるような気持ちにさせ、多彩な植物たちが混み合うことなく絶妙に風を通してながら公園の風景に溶け込む様は、見るほどに引き込まれる美しい眺めでした。予測の難しい酷暑を越えた先に秋の自然な美しさが際立つことこそが、宿根草ガーデンの真骨頂だと気づかせてくれるガーデンでした。





7月



7月

アーティチョークとバーベナ・ボナリエンスの紫花が宙に浮かび、ユニークな景色を楽しませる一画。



KINUTA “One Health” Garden

Garden Designer | 合同会社百暮 高橋祐真 (神奈川県)

作品のテーマ・創作意図

ヒトの健康、生きものの健康、環境の保全を包括的な繋がりとして捉えるワンヘルス (One Health) の概念を軸に、それら3つの主体が密接に関わり合う「ワンヘルスガーデン」をつくります。土壌環境を改善し、植物や微生物を豊かに育て、鳥や虫などの地域の生きものを呼び込む。ガーデンの香りや触れ合いを通し、ヒトの健康と安らぎを生み出すガーデンをつくり、いろいろな生きものがやってくる「みんなのガーデン」を実現します。



7月



7月

花壇の中央でユーバトリウム ‘グリーンフェザー’が2mほどに成長し、丈高く開花するアーティチョークとともに花壇に立体感をもたらす7月。

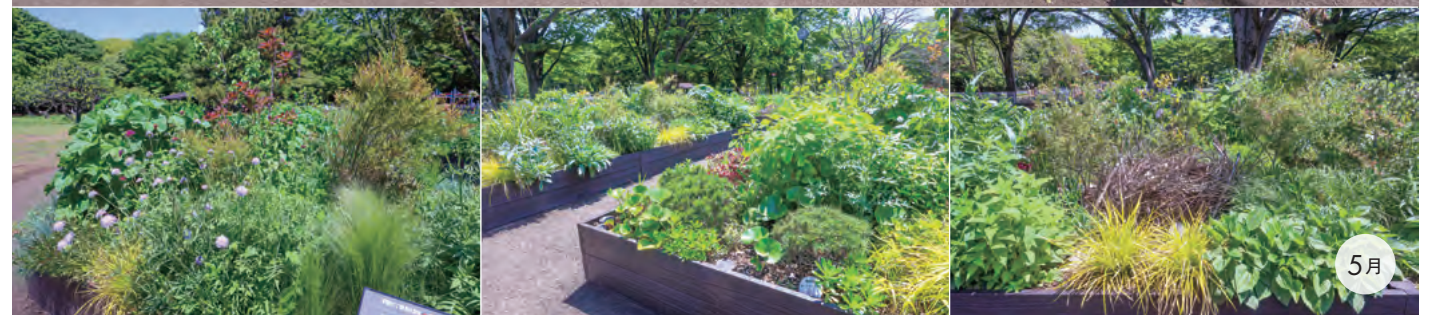
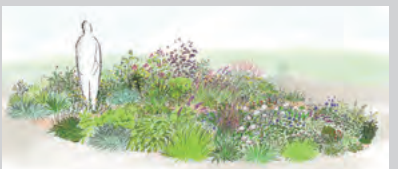
応募時に提出されたデザイン図面

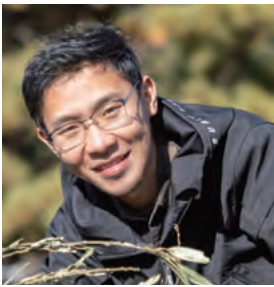
KINUTA “One Health” Garden



主な植物リスト

- 宿根草** (蜜源植物) : ルドベキア/オミナエシ/モルダナ/アザミ/ガウラ/スミレ/チェリーセージ など
- 宿根草** (四季の移ろい) : グラス類のフェスツカ/カレックス/イトススキ/フウチソウ/チカラシバ/レモングラス/ミュレンベルギア'カビラリス' など
- 低木類** (鳥類・昆虫類来訪) : スモークツリー'グレース'/ガマズミ/アロニア 'メラノカルバ'
- カラーリーフ** : カラスバセンリョウ/カリステモン'リトルジョン'/イリシウム 'フロリダサンシャイン'
- その他** (季節の果実や葉) : ビルベリー/コバノギンバイカ/レモンマートル





Garden Designer

合同会社百幕 高橋祐真 (神奈川県)

岐阜県大垣市出身。生態系や地域に根差した空間を軸にランドスケープアーキテクトとして、公共、民間の造園設計、現場監理に従事。今回のKINUTA “One Health” Gardenは、生態系、植木、ワークショップ、微生物の専門家とチームで作成し、人、生き物、環境が調和するみんなのガーデンを目指しました。

一年を振り返って

子どもたちの遊び場であり、天気の良い日には老若男女が思い思いに過ごす場所。そんな“日常の延長にある公園”の中で、ガーデンを「眺める」「触れる」、時には「花や葉を持ち帰る」など、さまざまな行動を通して、人と人、生き物、植物、微生物が自然に交わる世界を表現したいと考えました。宿根草の花色や種類の配置、低木との高低差などを工夫することで、2つの花壇でありながら統一感と自然な広がりを感じた空間を表現することができました。それぞれの植物の特性を活かしながら、ナチュラルな景観を形成できたと感じています。また、「生き物との共生」をテーマの一つとして掲げ、普遍的なチョウやウグイスなどの小鳥だけでなく、オオセイボウといった珍しい昆虫も観察され、多くの来園者楽しんでいただけました。

ガーデンは1年間を通してローメンテナンスで維持。刈り込みや枝の更新をしない剪定管理、季節ごとの補植をするのではなく、最初に植えた植物たちが育ちたいように育てました。

今回のコンテストに使用した原産地もバラバラで多種多様な植物たちは、限定的な植栽帯の中でコミュニティを作り生存競争をしています。昆虫や鳥などの生き物は上手くその空間にニッチを見つけて入り込みます。人はガーデンにより五感を刺激され、微生物を浴びることで、心身の本質的な健康を享受しています。この環境、ヒト、微生物の連関こそが“One Health”を体現しています。

さらに、イベントでの案内やメンテナンス、写真撮影などを通じて出会った方々には、「生態系のぬか床」といった取り組みも紹介し、微生物の世界にも関心を持っていただくことができました。私たちの目指す“One Health”の視点からガーデンを体感してもらえたのではないかと感じています。このメンバーで、“One Health”のガーデンを砦公園で提案できたことは、最大の成果だと思います。

審査員講評

微生物など土の中のこともよく考えられたガーデンで、土壌改良のため取り入れた菌糸平板からツヤツヤのキノコが生えてきた様は、まるでアート作品のようにも感じられました。「土壌環境が豊かになることで植物本来の力が発揮され、豊かな景観や生態系に繋がる」という自身のコンセプトに真正面から取り組み、生物多様性の面では、実際に虫たちを多く呼び寄せることに成功していました。景観的に植物の高さのバランスに欠ける面もありましたが、できるだけ自然に任せたおおらかな景色とも言えます。メンテナンスの回数も少なく、持続可能な公園の庭づくりという点でも、今後のパフォーマンスに注目していきたいガーデンです。





黄〜濃オレンジ花の色彩と、奥に咲くバーベナ・ポナリエンスやサルビア・グアラニチカなどの青紫花との補植対比が風景にリズムを与えている。



審査員特別賞

「みんなのガーデン」から 「みんなの地球（ほし）」へ

Garden Designer | 太田敦雄（群馬県）

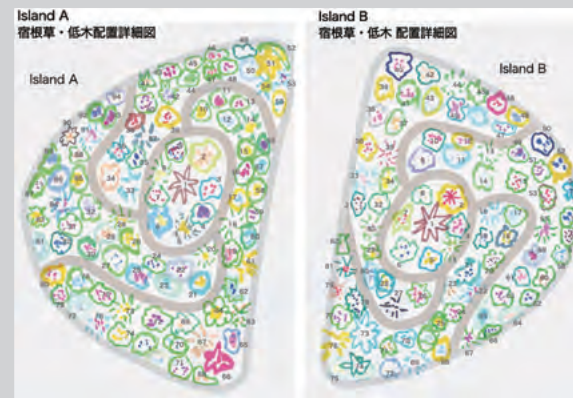
作品のテーマ・創作意図

私は「みんなのガーデン」を、来園者だけでなく、花を訪れる虫、土壌菌類などの分解者、そして庭の先につながるこの生きた星「地球」の環境といった全ての「生あるもの」をつなげる庭と捉えました。温暖化する東京の気候に合った植物を差別なく組み合わせ、虫や菌たちによる循環系の形成、見るだけでなく庭づくりに参加もできる「みんなのガーデン」。「みんな」が共に助け合いながら、末長く幸せに暮らす世界、生命共存の尊さ・美しさを伝えたい。この想いが、この庭から未来へ・社会へ・地球へと広がっていけば、と考えています。



多種多様な花が咲き続けるなか、中央に植えたアリウム 'サマードラママー'やカンナ 'ベンガルタイガー'などが丈高く成長し、見上げる景色へと変わった7月。

応募時に提出されたデザイン図面



主な植物リスト

宿根草：マンガベ 'マッチョモカ' / アムソニア 'ストームクラウド' / アガパンサス 'ブラックマジック' / アネモネ トメントーサ / ジンジャー (ミョウガ) 斑入り / イリス・エンサタ (ハナショウブ) / 'バリエガータ' / パトリニア プンクティフローラ / タリクトラム 'エリン' / ユーフォルビア 'ファイアーグロー' / ユーパトリウム 'リトルレッド' など

グラス類：カラマグロステス 'カールフォースター' / モリニア 'トランスペアレント' / アンドロポゴン 'ブラックホークス' / スキザキリウム 'ハハトンカ' / コルタデア 'ミニパンパス' / メリニス 'サバンナ' / ムーレンベルギア / スティバ / ホルデウム など

低木：ネリウム (キョウチクトウ) 'ペティットサーモン' / コルヌス (サングミズキ) 'ケッセルリンギ' / ロロペタルム (トキワマンサク) '黒雲' / ブッドレア・グロボサ など

球根：ナルキッス (スイセン) タリアなど数種 / チューリップ (原種、園芸種含めて多品種) / アリウム (開花期をずらして数種) / イキシア・パピアナ・ワトソニアなどの南アフリカ原産種 など





Garden Designer

太田敦雄 (群馬県)

前橋工科大学建築学科卒業。アマチュアの趣味で植栽・発信していた自宅が雑誌や建築家の目に留まり、趣味の園芸家からプロの道へ。2011年「ACID NATURE 乙庭」を起業。園芸店運営、建築家に寄り添う植栽設計家、植物・園芸関連の執筆や講師等、植物に関わる活動を多角的に展開。自分らしい一歩を踏み出して夢を叶えていく希望と勇気を伝えたいと思っています。

一年を振り返って

この庭には、私自身にとっても初めての挑戦や試み、そして心からのメッセージをたくさん盛り込んでいます。単に「きれいで気持ちのよい場所」ではなく、「人に力や学び、芸術的な希望を与える場」を目指して、深い思索と実践を重ねた一年でした。ほかでは見られない多種多様な個性的な植物を組み合わせ、審査の時だけでなく常に美しい開花リレーを織り成し、絶え間なく、そして常に変化し続ける美しさを保つことができました。その風景の変化には、私が追い求めてきた“漸進的な生命の美”が宿っていました。世界中の植物を混沌と調和させながらも、日本の夏冬の気候を生き抜ける植物選び。オクラやミョウガなど、どこか懐かしい日本の「民家の庭」の情景へとつながる一そんな新しい都市生態系を示す試みでもありました。

経験値やバックグラウンドの異なるボランティアの方々と心をつなげることも難しい課題でしたが、皆が庭を心から愛し、活き活きと動いてくださる姿に何度も胸を打たれました。ボランティアの方々と互いをリスペクトし合いながら、人間も植物も共に成長していくこのプロセスは、気候変動により、個人でガーデンを作ることがますます難しくなる現代において、とても心優しく美しい行為でもあり、人と人を結ぶ社会的・コミュニティ的な意義においても大きな希望を与える取り組みであると実感しました。

春、車イスでいらした方が、「私の庭を背景に写真を撮りたい」と車イスから立ち上がり歩いてくださったその時、植物と人との間に底知れないパワーが生まれているのを感じました。愛と思いやりをもって接すれば、植物にも人にも力が宿る。ガーデンは勝負ではない。庭を造る者の情熱や優しさ、心の美しさを映す鏡・器なのだと学びました。「あなたはその時ひとつの奇跡に気づくだろう。愛の報酬は愛であるということを」(リチャード・カールソン)



審査員講評

個性が際立つ植物を巧みに組み合わせ、まるでジャングルの中に入り込んだような感覚を味わえるガーデンでした。多種多様な植物を数多く使い、植物の可能性をほとんど追及したカラフルでダイナミックな植栽デザインが特徴的で、その圧倒的な色彩の豊かさが多くの来園者の目を惹きつけていました。花壇の多角形を生かし、見る角度によって、構造的で造形的にも面白い植物、質感のパラエティ豊かな組み合わせ、多彩に変化する色合いなどを楽しめる点が印象的でした。遠くから見ても植物たちの存在感が力強く、厳しかった今夏を乗り越えた姿には感動を覚えます。写真を撮りたくなるシーンが随所に散りばめられ、見る人を自然と滞留させる魅力に富んだガーデンでした。



TOKYO PARK GARDEN AWARD

第1回 @ 代々木公園

第2回 @ 神代植物公園

第3回 @ 砧公園

第4回 @ 夢の島公園

詳細はこちら



第3回 東京パークガーデンアワード 砧公園
2024年9月-2025年11月 コンテスト作品集

2026年2月
発行 公益財団法人 東京都公園協会



主催：東京都

●この事業に関するお問合せ

事務局：東京都公園協会 公園事業部 事業開発課
メール：tokyo-pga.sm@tokyo-park.or.jp


 緑と水 まちを豊かに 一尽きない可能性を追い求めます
 公益財団法人 東京都公園協会
 Tokyo Metropolitan Park Association